

記 録

文書番号	SCJ 第 25 期-050904-25320500-032
委員会等名	心理学・教育学委員会脳と意識分科会
標題	融合社会脳研究センター創設に向けて —第 20～25 期脳と意識分科会における審議経過と審 議結果の記録—
作成日	令和 5 年（2023 年）9 月 4 日

※ 本資料は、日本学術会議会則第二条に定める意思の表出ではない。掲載されたデータ等には、確認を要するものが含まれる可能性がある。

この記録は、日本学術会議心理学・教育学委員会脳と意識分科会の審議結果をとりまとめ公表するものである。

日本学術会議心理学・教育学委員会脳と意識分科会

委員長	苧阪 直行	(連携会員)	京都大学名誉教授
副委員長	松井 三枝	(第一部会員)	金沢大学国際基幹教育院教授
幹事	蘆田 宏	(連携会員)	京都大学大学院文学研究科教授
幹事	坂田 省吾	(第一部会員)	広島大学大学院人間社会科学研究科教授
	今水 寛	(連携会員)	東京大学大学院人文社会系研究科教授
	大平 英樹	(連携会員)	名古屋大学大学院情報学研究科教授
	苧阪 満里子	(連携会員)	大阪大学名誉教授・大阪大学先導的学際研究機構招聘教授
	柏野 牧夫	(連携会員)	日本電信電話株式会社コミュニケーション科学基礎研究所 NTT フェロー・柏野多様脳特別研究室長
	川合 伸幸	(連携会員)	名古屋大学情報学研究科教授
	川畑 秀明	(連携会員)	慶應義塾大学文学部教授
	齊藤 智	(連携会員)	京都大学大学院教育学研究科教授
	坂上 雅道	(連携会員)	玉川大学脳科学研究所教授
	高橋 英彦	(連携会員)	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学主任教授
	仁平 義明	(連携会員)	白鷗大学・東北大学名誉教授
	福山 秀直	(連携会員(特任))	京都大学学際融合教育研究推進センター・特任教授
	村井 俊哉	(連携会員)	京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座(精神医学)教授
	山口 真美	(連携会員)	中央大学文学部教授
	渡部 文子	(連携会員)	東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究所教授

第 20～25 期脳と意識分科会における審議経過と審議結果（まとめ）

以下、第 20 期から第 25 期（18 年間）にわたる脳と意識分科会設置の趣旨・目的、活動方針及び過去の活動履歴の概略を記録します（委員長・荻阪直行記す）。

設置の趣旨と目的：意識の解明はデカルト以来、人間存在の根源にかかわり心理学・教育学・哲学・医学・情報学など日本学術会議の 1, 2, 3 部の分野と密接につながる先端的な領域融合的テーマである。ここ数年、実験心理学、認知脳科学や AI を含む情報学などの分野で脳と意識の科学的研究が進展してきた。前頭葉における創発的思考、自己や他者の脳内表現、さらに健全な社会性を育む社会脳研究が新たな意識科学の領域を学際的アプローチで切り開きつつある。志向的な意識を支えるワーキングメモリや他者の心を想像する心の理論などがどのように高次脳の実行系機能とかかわるのかを、人文社会科学を軸として理系との融合を目指す「人文社会科学からの社会脳研究」の視点から検討し、複雑化したネットワーク社会がかかえる諸問題を検討する。

活動方針：分科会の活動として、社会脳の立場から、高齢化社会、心と脳の発達（教育）、社会不適応、心の理論、自己意識、思考の脳内表現、精神医学、神経倫理学、行動経済学と報酬期待、神経美学、AI など、意識と社会にかかわる先端的研究の理解を通して、現代社会がかかえる問題を検討して提言をまとめる。その上で、文理融合の新学術領域、社会脳研究を実施するための「融合社会脳研究センター」の創設をはかる。この間、社会脳の国民的理解を得るために、第 2 部の「神経科学分科会」や「脳とこころ分科会」と連携して 3 分科会合同シンポジウムを実施する。

社会脳とは？

本分科会では、人文社会科学と脳科学・情報学を結びつけ、社会脳(social brain)と呼ばれる概念から、脳がどのように社会的な意識を形成するかを考えてきた。社会脳は自己と社会を結びつけ、豊かな社会性を生み出す。多様な観点から社会脳の研究と展開を議論した結果、人文社会科学と脳科学・情報学を統合した新しいアプローチが必要であると結論づけられた[1]。社会脳の研究では、個人と集団の適応や不適応、協力と競争などのダイナミクスを、脳の認知と情動処理の中で総合的に考える必要がある。このため、文理が融合したアプローチ（融合社会脳）を通じて、健全な社会性の回復や現実社会および仮想社会におけるストレスの低減などを実現し、活気に満ちた協調的で創造的な社会を育むた

めの基礎研究が必要である。研究の実施には MIT のメディアラボをモデルとした融合社会脳研究センター(Social Brain Lab: SBL)が構想されている[参考資料 1、2]。

第 20 期(2005-2008)

2006/6/2 第 1 回分科会 (6 名) 及び「社会脳シンポジウムーソーシャルブレイン」
((話題提供: 苧阪直行「社会脳とは何かー新しい意識へのアプローチ」、坂井克之「わたしの意思と脳の意味」) 東大山上会館、日本ワーキングメモリ学会と共催) 100 名参加

2006/8/2 「脳と意識」分科会設置承認 (委員長・苧阪直行 (京大文)、副委員長・福山秀直 (京大医), 宮下保司、渡邊正孝、利島保、仁平義明、渡邊茂、乾敏郎、原田悦子、坂上雅道、内田伸子、苧阪満里子、松井三枝、委員 13 名)

2006/10/3 第二部・基礎医学委員会 (神経科学分科会)、臨床医学委員会 (脳と心分科会) と第三部情報学委員会 (拡大情報学委員会) と連携の確認

2007/3/16 第二部情報学拡大推進委員会シンポジウム “情報学の未来” (話題提供: 苧阪直行 “脳は意識するか? “)

2007/4/10 第 2 回分科会開催。第 1 回シンポジウムについて協議

2007/11/26 第 3 回分科会 (8 名) 及び 3 分科会合同シンポジウム「脳と高齢社会」(学術会議講堂) (話題提供: 松下正明、高橋良輔、山脇成人、三村将、岩坪威、福山秀直、苧阪満里子) 参加者 400 名

2008/8/2 第 4 回分科会 (7 名) 「社会脳 2008 シンポジウム」(京大文学部第 3 講義室) (話題提供: 村井俊哉、藤井俊勝、仁平義明) (共催: 日本ワーキングメモリ学会・京都大学グローバル COE 共催「心が活きる教育のための国際拠点」) 参加者 70 名

2008/12/12 3 分科会合同シンポジウム「脳と心の発達」(学術会議講堂) (話題提供: 加藤進昌、神尾陽子、北沢茂、多賀巖太郎、板倉昭二、大隅典子) 参加 150 名

第 21 期(2008-2011)

2009/3/13 心理学・教育学委員会合同会議及び分科会 21 期 (13 名) 苧阪直行 (委員長)、福山秀直 (副委員長)、利島保、仁平義明、渡邊正孝、渡邊茂、原田悦子、坂上雅道、苧阪満里子、内田伸子、松井三枝、宮下保司、乾敏郎

2009/10/11 近畿地区シンポジウム 「人は何故笑うのかー社会脳からのアプローチ」 (京大百周年記念ホール) (話題提供: 井上宏、岩瀬真生、野澤孝司) 100 名参加

2009/10/31 3 分科会合同シンポジウム「社会性の脳科学」(日本科学未来館) (話

題提供：藤井俊勝、村井俊哉、三村将、山末英典、貝淵弘三、和田佳司)150名参加

2010/9/11 分科会(8名)及び英語によるシンポジウム「神経経済学:その基礎と展開」(学術会議講堂)(話題提供:T.Zentall, W.Schultz, C.Camerer, H.Takahashi)80名参加

2010/12/4 第8回分科会(8名)+3分科会連携シンポ「脳と教育」(学術会議講堂)(話題提供:津本忠治、中谷裕教、石黒浩、小西行郎、虫明元、黒田公美)参加者70名

2011/7/30 学術会議近畿地区講演会「世界の大学から見た日本の大学評価」(話題提供:渡邊(トムソンロイター)、榎木、依田、石川、渡部)

第22期(2011-2014)

2011/10/1 第22期16名で発足 委員長・苧阪直行、副委員長・安西祐一郎、幹事・苧阪満里子、幹事・福山秀直、乾敏郎、上田完次、岡ノ谷一夫、行場次郎、坂上雅道、徳永宗雄、利島保、仁平義明、開一夫、福山秀直、松井三枝、渡辺茂、渡邊正孝

2011/12/10 第1回分科会(13名)脳と意識(心)についての社会脳研究所の創設を見据えた予算的措置などが論議された+3分科会シンポジウム「脳と睡眠」(日本学術会議講堂)(共催:東北大GCOEプログラム、日本ワーキングメモリ学会)(話題提供:櫻井武、上田泰己、本間さと、三島和夫、井上雄一)130名参加
2012/3/25 融合社会脳研究センター創出に向けて予想される新たな研究課題の現状を展望するため、社会脳シリーズ(全9巻)(新曜社)を計画(執筆者に委員を含む)。その第1巻「社会脳科学の展望—脳から社会をみる—」を刊行。その後2015年まで道徳の神経哲学、注意制御、神経美学、神経経済学(行動経済学)、自己と他者の心の理論、神経文学、神経加齢と発達、神経社会ロボット学など全9巻を刊行[2-10]。

2012/10/5 第2回分科会 12名参加(話題提供:徳永宗雄、渡邊正孝)

2012/12/1 第3回分科会(12名参加)。22期の学術の大型施設計画・大規模研究計画に「融合的社会脳研究センター構想(案)」を提出することを決定+3分科会シンポジウム「脳と意識」(学術会議講堂)(話題提供:安西祐一郎、開一夫、下條信輔、井ノ口馨、河村満、神庭重信)170名参加

2013/9/7(土)22期第4回分科会(東大医学部研究棟)9名参加 学術フォーラム「心の健康社会の創造に向けて」(鉄門記念講堂)(話題提供:萩原一郎、川人光男、村井俊哉、河西春郎、小泉英明、田中啓治、高橋政代、宮川岳彦)

2013/12/20 22期第5回分科会 日本学術会議・会議室(話題提供:利島保、岡ノ谷一夫)12名参加。大型研究計画「融合的社会脳研究センター構想」につ

いて検討 2014/6/20 22期第6回分科会 日本学術会議・会議室（話題提供：福山秀直）9名参加

第23期(2014-2017)

2014/12/19 第1回分科会 学術会議・会議室（話題提供：松井三枝）23期分科会、18名で発足。委員長（苧阪直行）、副委員長（安西祐一郎）、幹事（福山秀直）、上田完次、大平英樹、岡ノ谷一夫、行場次郎、坂上雅道、坂田省吾、三宮真知子、徳永宗雄、利島保、仁平義明、開一夫、松井三枝、明和政子、渡辺茂、渡邊正孝 2015/3/27（阪大東京センター）第2回分科会（話題提供：上田完次）12名参加

2015/10/24 第3回分科会（学術会議・会議室）三分科会合同会議（脳と意識、神経科学、脳とこころ）38名参加、マスタープラン2017の融合領域に「融合的な社会脳研究センター構想」を提案+ シンポジウム「求められる「脳とこころの科学—教育・医療、モノづくり—」（学術会議講堂）（話題提供：大隅典子、苧阪満里子、山脇成人、岩坪威、川人光男、岡田真人）参加者170名

2016/2/13 第4回分科会（阪大東京オフィス）9名出席

2016/3/22 第5回分科会（学術会議・会議室）9名出席 2016年シンポジウム「自己を知る脳・他者を理解する脳」に決定。マスタープラン2017に提出した「融合的な社会脳研究センター構想」[重点大型研究計画 #159(34-1)p.113-114]が採択。

2016/9/10 第6回分科会（学術会議・会議室）合同委員会 40名参加+シンポジウム「自己を知る脳・他者を理解する脳」（学術会議講堂）（話題提供：苧阪直行、長井志江、磯田昌岐、岡本仁、神尾陽子、岡本泰昌）300名参加

2016/9/18 「23期マスタープラン2017」ヒアリング

2016/12/2 第7回分科会（学術会議）提言作成の決定と重点大型研究計画につき審議

2017/2/6 重点大型研究計画マスタープラン2017に提出した「融合的な社会脳研究センター構想」[#159(34-1)p.113-114]が採択（163件中採択された28件の一つ）。2017/7/28 学術会議幹事会（第249回）で「提言」承認

2017/9/13 提言「融合社会脳研究の創生と展開」を「脳と意識」分科会から発出公表（A4 16頁）。2017/9/13 提言要旨掲載「融合社会脳研究の創生と展開」学術の動向2018/5 刊行（93頁）

第24期(2017-2020)

2018/2/9 第24期分科会第1回分科会 15名で発足 苧阪直行（委員長）、安西祐一郎（副委員長）、蘆田宏、今水寛、大平英樹、苧阪満里子、川畑秀明、坂上

雅道、坂田省吾、三宮真智子、仁平義明、福山秀直、松井三枝、山口真美、渡邊正孝

2018/2/24 第2回分科会、4/21 第3回分科会、6/1 第4回分科会（話題提供：川畑秀明）「提言」インパクトレポート提出 9/8 第5回分科会 10/25 第6回分科会（話題提供：山口真美）各分科会 9-11名出席

2018/9/26 日本心理学会第82回大会公開シンポジウム（分科会共催）「融合社会脳研究の創生と展開」（東北大学・仙台国際センター）（話題提供：大平英樹、川畑秀明、坂上雅道）150名参加

2018/10/20 近畿地区講演会シンポジウム「社会脳から心を探る」（京大イノベーションセンター講堂）（話題提供：苧阪直行、菊知充、大平英樹、高橋英彦、松井三枝）150名参加 2019/9/26 日本心理学会82回大会シンポジウム（分科会共催）「融合社会脳研究—自己の主体性を考える」立命館大学 90名参加

第25期(2020-2023)

2020/1/30 第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン2020）で「融合社会脳研究センター構想」採択（区分1計画番号31、融合領域、領域番号32-1；118-119頁）

2020/2/10 近畿地区講演会シンポジウム「社会脳から心を探る」の書籍化。「社会脳から心を探る—自己と他者をつなぐ社会適応の脳内メカニズム」学術叢書#26(2020、日本学術協力財団)刊行（203頁）

2020/9/8 日本心理学会84回大会公開シンポジウム（分科会共催）「融合社会脳研究の発展に向けて」（話題提供：坂田省吾、高橋阿貴、渡辺茂）東洋大学 80名参加（9/8から2021/1/31までWeb参加234名）

2020/12/4 25期第1回分科会 18名で発足（ZOOM会議）苧阪直行（委員長）（京大名誉教授）、松井三枝（副委員長）（金沢大学教授）、坂田省吾（幹事）（広島大教授）、蘆田宏（幹事）（京大教授）、福山秀直（特任連携）（京大名誉教授）、苧阪満里子（大阪大学名誉教授・阪大脳情報通信融合研究センター主任研究員）、仁平義明（星槎大学教授）、坂上雅道（玉川大学教授）、今水寛（東大教授）、大平英樹（名大教授）、川畑秀明（慶大教授）、山口真美（中央大教授）、川合伸幸（名大教授、）齊藤智（京大教授）、高橋英彦（東京医科歯科大教授）、柏野牧夫（NTTコミュニケーション科学基礎研究所室長）、村井俊哉（京大医教授）、渡部文子（東京慈恵会医科大学教授） 研究センター構想実現に向けて国内外拠点のネットワーク構築を検討。

2021/3/10 第2回分科会（Zoom）（話題提供：高橋英彦）「融合社会脳研究センター構想」のネットワーク構築の推進に向けて検討

2021/5/27 第3回分科会（Zoom）（話題提供：渡部文子・川合伸幸）

2021/8/6 第4回分科会 (Zoom) (話題提供: 村井俊哉・斎藤智) Virtual Social Brain Lab (VSBL) のような仮想的組織の設定を検討

2021/10/15 第5回分科会 (話題提供: 柏野牧夫)

2022/1/7 第6回分科会 (話題提供: 蘆田宏)

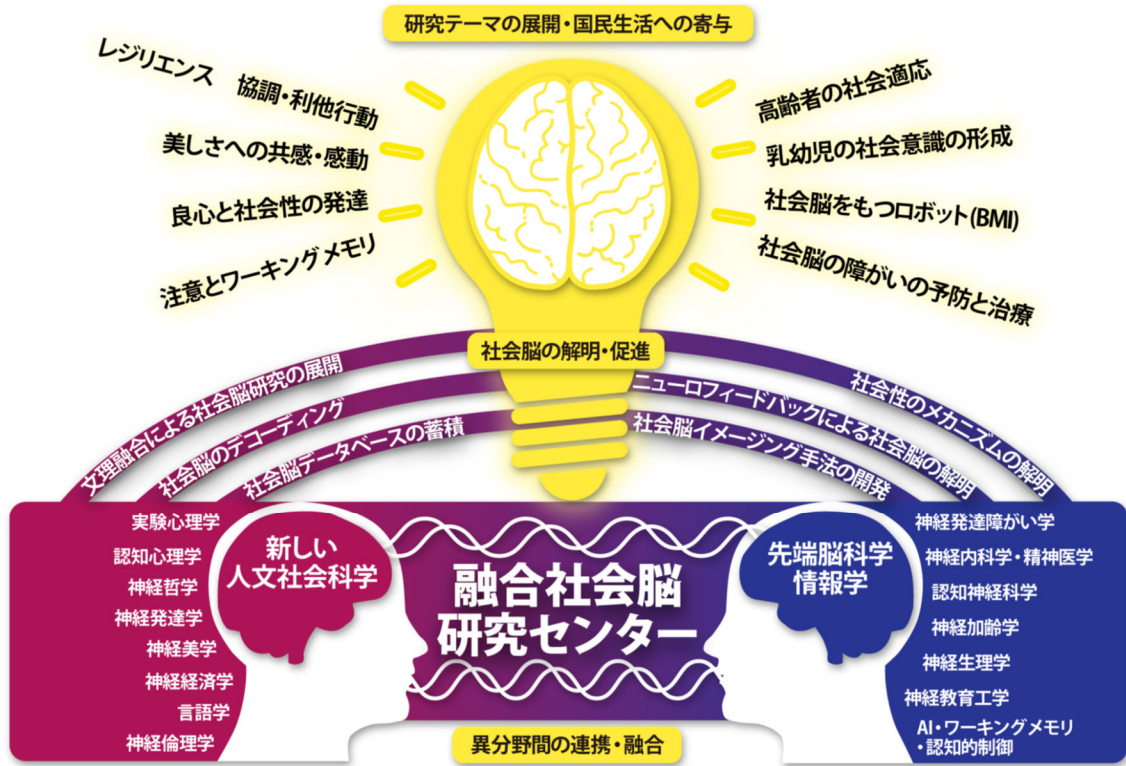
2023/2/15 第7回分科会 18名参加 「脳と意識分科会」26期へ継続希望多数
学術の中長期研究戦略「未来の学術振興構想」への参加を申請

2023/9/22 第8回分科会開催予定

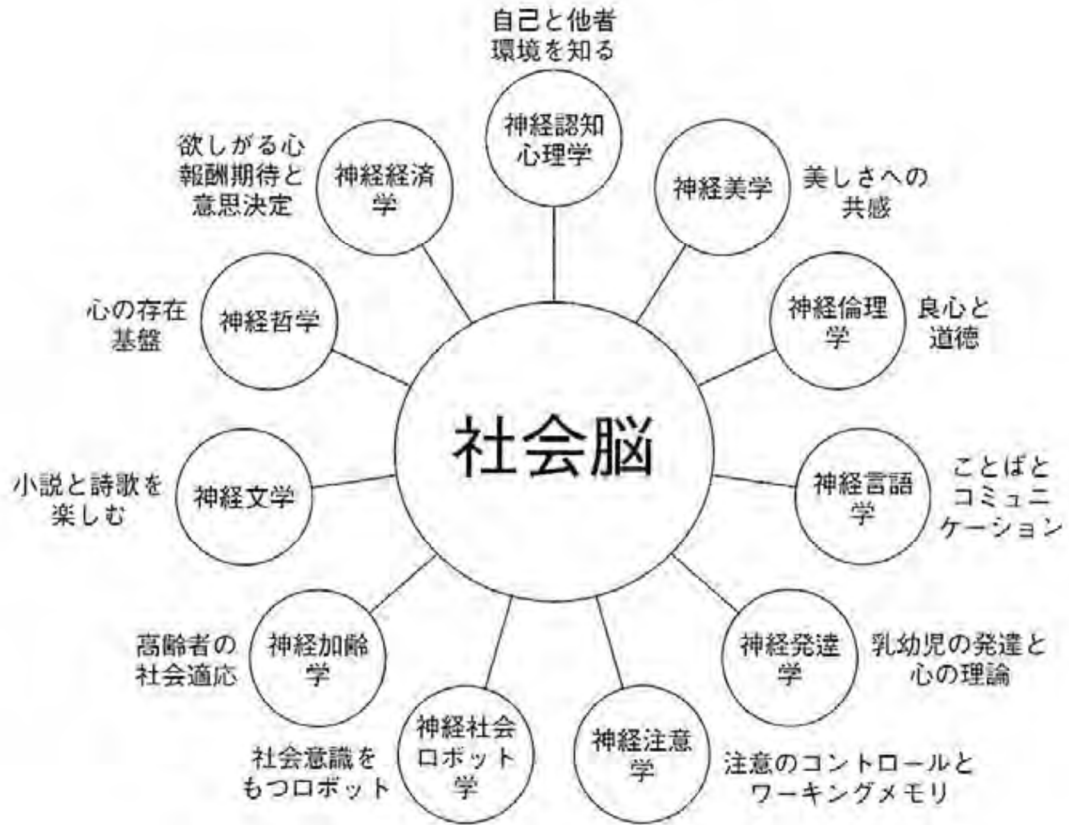
<参考文献>

- [1] 日本学術会議、提言「融合社会脳の創生と展開」、平成 29 年(2017)9 月 13 日、心理学・教育学委員会、脳と意識分科会。
- [2] 苧阪直行編『社会脳科学の展望 脳から社会をみる：社会脳シリーズ 1』新曜社 2012.
- [3] 苧阪直行編『道徳の神経哲学 神経倫理からみた社会意識の形成：社会脳シリーズ 2』新曜社 2012.
- [4] 苧阪直行編『注意をコントロールする脳 神経注意学からみた情報の選択と統合：社会脳シリーズ 3』新曜社 2013.
- [5] 苧阪直行編『美しさと共感を生む脳 神経美学からみた芸術：社会脳シリーズ 4』新曜社 2013.
- [6] 苧阪直行編『報酬を期待する脳 ニューロエコノミックスの新展開：社会脳シリーズ 5』新曜社 2014.
- [7] 苧阪直行編『自己を知る脳・他者を理解する脳 神経認知心理学からみた心の理論の新展開：社会脳シリーズ 6』新曜社 2014.
- [8] 苧阪直行編『小説を楽しむ脳 神経文学という新たな領域：社会脳シリーズ 7』新曜社 2014.
- [9] 苧阪直行編『成長し衰退する脳 神経発達学と神経加齢学：社会脳シリーズ 8』新曜社 2015.
- [10] 苧阪直行編『ロボットと共生する社会脳 神経社会ロボット学：社会脳シリーズ 9』新曜社 2015.

< 参考資料 1 > 融合社会脳研究センター概略図



＜参考資料 2＞社会脳にかかわる学術分野例



以上